

# 愛媛県現代俳句協会会報

No. 33  
R3・9・20  
発行者 愛媛県現代俳句協会 会長 松本勇一  
事務局 〒七九九一-二六六二  
松山市太山寺町甲四七五の三 和田幸司方

ご挨拶 会長 松本勇一

令和三年度の会報をお届けします。コロナ禍は止まることを知らず、第五波に至っております。会員諸氏はほとんどの方がワクチン接種を済ませたのではないでしょうか。今のところワクチンが最も有効な手立てのようです。様々な変化の情報を吸収しその変化に対応していかなくてはならぬなと思う昨今であります。

今年度の県民文化祭は予定を変更し投句のみの大会となりました。後日作品集刊行の予定ですので応募された方は楽しみにしておいてください。

現代俳句協会総会は本年も誌上開催とさせていただきました。募集句を役員の皆さんに選んでいただき、高点句にはささやかな賞を送らせていただきました。

梅岡ちとせ」

が十二点集めて最高得点句となりました。いつも人気のある俳句を書かれる大先輩の梅岡さんです。現代人が忘れてしまつてゐる風景を見事に書き留められています。農家の家は農を継承するのが当たり前でした

が、次第にそれも続かなくなつたという」とでしょうか。畠みかけた書き方が郷愁感を濃くしています。

「母の日や母になる娘が泣きにくる

松本 豪

が次点句でした。いつもユーモア溢れる作品をものにする作者です。今回も母の畠みかげと下五の展開で事情はあるのでしょうかが面白みを發揮しています。

「子を諭す父の正座や小鳥来る

安藤和子」

鍼に父上の気高さを見た作者の感性の豊かさを思います。父上が休憩されているときの鍼には気が漂つていたのでしょうか。「紙風船畠めば時の沈黙す 本郷和子」紙風船というあまり見ないおもちゃを畠むことで時 자체が沈黙すると書く感覚の冴えを称えたいと思います。

コロナに負けず、毎日元気で明るく過ごしてください。俳句を考えることは「どこに良い」と思って俳句を書いて行きましょう。来年の総会でお会いしましょう。

ました。父上への尊敬の情がうかがえます。「風薫る手書きの地図に大きな木 神楽坂リンダ」

地図を書いて場所を知らせるときなど木がとてもなく大きい時があります。そういう実景をさつと掬い上げて秀抜です。

「氣高きはれんげ田に立つ父の鍼 門屋和子」

## 第三十三回総会報告（紙上）

### 令和二年度 事業報告

- 一、愛媛県現代俳句協会会報の発行  
十二月二十日に会報No.32号を発行し、全会員と関係機関へ郵送した。
- 二、通信交流俳句会の開催  
本年で十二年目を迎えた。毎月の通信交流で俳句の研鑽を積み、参加者は三十名を数えた。
- 三、三月二十三日東京における現代俳句協会理事会及び総会の予定は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となつた。
- 四、協会賞・新人賞の募集と選定  
例年通り募集し、受賞者を選考し表彰する。新人賞 安部奈月となつた。。
- 五、令和二年度総会・役員会について  
子規記念博物館において実施する予定は新型コロナウイルス感染防止のため中止となつた。

### 令和三年度 事業計画

- 一、愛媛県現代俳句協会賞・新人賞の募集  
協会賞は近作五十句、新人賞は同三十句を令和四年一月二十日締切で募集する。選考決定は二月上旬参加費は無料。
- 二、俳句勉強会・吟行会の開催  
・県内会員による合同吟行会を開催し、実作力の向上を目指すとともに親睦を深める。

### ・ 東・中・南予で吟行会を開催して事務局に実施報告をする。

### ・ 東・中・南予で吟行会を開催して事務局に実施報告をする。

- 三、愛媛県現代俳句協会会報の発行  
会報No.33号を発行し、全会員と関係機関へ郵送する。

### 令和三年度

#### 愛媛県現代俳句協会 総会投句集

繩電車青田風駆通過せり  
水禍より三年の祭笛近し  
甚平を着て伊予弁に戻りおり  
轉りや棺の釘を打ち終えて

松本勇一  
青野ひろ美

少年の素振りざくざく春キヤベツ  
電柱の昼の寂しさ麦の秋  
遺されて独居老人閑古鳥

安藤和子  
秋山豊美

稻井夏炉  
板倉肱泉

魂の戻つてをり水中花  
生きている証の脱皮更衣

牛津せつ  
梅岡ちとせ

春深き母の寝息の軽やかに  
永き日の暮色を溜めて長屋門

浦田真紗世  
大西宣子

風光る中心であれヒロシマ  
大西政司

ハイク）へ積極的に参加する。

八、現代俳句協会本部総会への出席  
毎年三月に開催される総会に出席する。

九、第三十四回定例総会の開催  
令和三年六月に定例の総会を開催する。（予定）

春だなあ上着を脱いだ銀行員 大野美代子  
 半夏生ぐるっと我が歯のレントゲン岡田初音  
 島いつぱい命の呼吸花みかん 小木曾富美子  
 遠ざかる面影茅花流しかな 越智裕美子  
 暖かや亀のオブジエが動き出す 小野千秋  
 見送りし人眼裏に螢の夜 加賀城燕雀  
 椅子ふたつウクレレひとつ夏の風 神楽坂リンド  
 ゆれてゐる襪巾着の宴歎かな 片山一行  
 降ればすぐ水増す流れ花菖蒲 片岡寿子  
 リハビリを時にはさぼる日借時 加藤公子  
 二人して生かされさくらから桜 門屋和子  
 パイ生地の寝かされている朧月 金井令子  
 水音の止む八月のマンホール 加根兼光  
 雰囲気のあたりで燃えている焚火川嶋ばんだ  
 休耕田植田に変える青いシャツ 金並れい子  
 花空木今日も真顔の法螺話 櫛部天思  
 麦わら焼くむらさきの煙漂わせ 郷田喜久江  
 半地下の珈琲店や夏兆す 河野寿子  
 八月の地球つぎはぎだらけです 薦田のり子  
 さすらいてこころは永遠の青野かな 近藤亜沙美  
 許されたくないから土筆を摘んでいる 近藤幽慶  
 苗床に義農作兵衛の息かかる 新宅美佐子

風語る葉裏にさくらんぼ熟れこと 高木満智  
 命日だね両手に集める心拍音 たかはしげしづみ  
 短夜や摸の添い寝を頼もうか 高橋美弥子  
 本堂の音声菩薩飛花落花 武智かおる  
 桐の花麒麟の吐息かも知れず 玉井淳子  
 春霞汽笛一声残す海 二宮由紀黄  
 黄砂よりコロナが怖い窓開ける 乃万美奈子  
 三年過ぐ仮設暮らしにまた夏が 浜田京子  
 コスマスや園児を隠し揺れてをり 福永立青  
 噴水のさみしさなんて知つている 藤田敦子  
 師と友の句のなつかしき枝垂れ桜 藤田ユリ子  
 新樹光この世に生れしものため 本郷和子  
 人と会う機会少なし梅漬ける 松浦洋子  
 母の日や叱られ見上ぐ雲赤し 松木ヒサ子  
 寄居虫の忘れてしまつた尺貫法 松本 豪  
 お降りや闘牛の勢子湯気上げて 松本よし乃  
 カーネーション海を渡りて母の元 丸内松美  
 三月の顔となる朝ガラス拭く 丸木美津子  
 菜の花やここぞとばかり蝶の恋 宮田頼行  
 風の客招き入れたる夏座敷 三好照子  
 潛世は知らぬふりして蝸牛 三好眞由美  
 コロナ禍のやそという歳余花の白 三好靖子  
 春は曙やることあると亡夫帰る 大野美代子  
 朝礼の訓示簡素松の花 稲井夏炉

※「通信句会活動状況」

- ・年五回の投句と五回の互選を行う。

・毎月の投句・選句はがきにコメントと感銘

句の句評

・役員による選句の依頼

・年一回の合同俳句会の開催

・愛媛新聞への投稿

・一年間の活動成果を冊子にまとめる。

※令和二年度愛媛県現代俳句協会新人賞  
・安部奈月氏

◇応募資格

愛媛県現代俳句協会会員

◇締切り

令和四年二月二十日

◇投句料

無料

◇選考委員

松本勇二 井上論天

協会賞 松本勇二 井上論天

新人賞 松本勇二 本郷和子

山内崇弘

◇発表表彰 令和四年度総会にて  
◇応募先 〒791-1106

松山市今在家一丁目六一三二  
松本勇二宛

県協会会費一、〇〇〇円は今回徴収しないこととなりました次回から徴収しますのでお願いします。なお、納入してくださった方は次回に充当します。  
〒790-1096  
松山市枝松二一四一四一  
窪田圭子まで

★令和三年度愛媛県現代俳句

**協会賞 同新人賞の募集**

令和三年度役員

顧問 宮田頼行

会長 松本勇二

副会長 井上論天

本郷和子 山内崇弘

白石司子

大野美代子 加賀城燕雀

青年部長 家藤正人

幹事 藤田敦子 たかはしげみ

三好靖子 三好眞由美

丸木美津子 金並れい子

窪田圭子

和田幸司

監事

会計

事務局

大野美代子 加賀城燕雀

藤田敦子 たかはしげみ

三好靖子 三好眞由美

丸木美津子 金並れい子

窪田圭子

和田幸司